

大切なことは人間が自分の人生について覚る、自分がこうして生きているということの意味について心から納得する、そのためにいったい何が自分をかくもたらしているのかということを知る。つまり自分をほんとうに捉えるということなのです。

石原 慎太郎『法華経を生きる』より

冒頭のこの一文を読んでどう思われるでしょうか？平常の生活を過ごしている時は、自分の意志で何でもやっているように思い込んでいる。しかし、ひとたび病気や事故、社会的、経済的困難に巡り会うと、自分のやっていることは何なのか？自分はこうしてこんなめにあわなければならないのだろうと思ひ悩むのです。

ところで、次の3問の問いに「できる」と答えられる人はいるでしょうか？

- 1 自分の誕生日を決めてこの世に生まれてきましたか？
- 2 自分の心臓を好きな時に動かしたり、止めたりできますか？
- 3 死んでから自分の力で棺桶に入ることができますか？

これは檀信徒研修会で本上人がお話になったことですが、そんなことできるひとはこの世には誰一人いません。そこがまさに「不可思議なこと」です。そのことをよくしることが、本当の自分を捉えることになりはしないかと思った次第です。

よく「お寺には死んだのちにお世話になります」と言う方がおられます。

しかし、私達僧侶でも超能力者ではないので、死んでしまった人に、心からその人生を納得するようにさせることはできません。不可思議な存在阿弥陀様に救っていただくよう皆さんが祈ることを勧めることが大切です。

お釈迦様も「縁なき衆生は度し難し」といっておられます。

これから一体世の中がどうなるのか多くの人々が不安に思っています。しかし一人一人が光をはなつつもりで過ごしてほしいものです。阿弥陀様はみなさんの鏡です。笑ってむかうものには笑みで返し、怒りには怒りがかえるそのことをよく自覚すべきです。彼岸は絶好の修行の時です。

ぜひお詣り下さい。

合掌
住職 俊翁 拝

浄土宗福岡教区檀信徒研修会開催さる



去る2月26日、久留米石橋文化ホールで平成13年度檀信徒研修会が開かれました。満員の会場で読経のあと、総本山知恩院布教師有本 亮啓師「家庭にみ仏の光を」の講演ののち、河内家菊水丸師匠の新聞詠み河内音頭「法然上人一代記」が行われました。



一皿精進

Vegetarian Cooking

いももち

専光寺住職夫人 村井千波さん



材 料

- 長芋、..... 40g
- 白玉粉、..... 25g
- ゴマ油、..... 小さじ1杯
- 味噌、..... 大さじ1杯
- 干し椎茸、... 2g
- にんじん、... 2g
- たけのこ、... 5g
- みつば、..... 3束
- 白ごま、..... 8g
- ごま油、..... 少々
- 砂糖・みりん・醤油、... 小さじ1杯

作り方

1. 皮をむいた長芋を薄く切って蒸し、よくつぶす。
白玉粉はミキサーにかけて1と混ぜる。
2. 干し椎茸、にんじん、たけのこ、みつばをゴマ油で炒め、味噌を入れる。
3. 1をピンポン玉大(約40g)にのばし、2を包み、一つずつラップでくるんで約十分ほど蒸す。
4. 白ごまをよく摺り、砂糖、みりん、醤油でたれを作る。
5. 蒸した団子にゴマだれをかけ、青じそを散らす。



其の言

其の式

觀自在菩薩が般若波羅密多を深く行じて、この世の眞実を照見された時、五蘊の働きに依つて起るこの世の全ての出来事にとらわれてはいけな...

或る時、私は目を閉じて思考せり、そして気付けり、生まれた者は必ず死す、死して亡くなる私が今在り、今この時我は在り故に生まれる前の我...

唯識三十頌 稽首唯識性 滿分清淨者 由反說我法 有種々相執 謂異熟思量 及了別境識 不可知執受 處了常與觸 是無覆無記 觸等亦如是...

世道とには有ることなし、次は第三能変なり。差別なること六種有り、境を了するを性と相ともなす。善と不善と俱非なり、此の心所は遍行と別境と...

唯識を起して唯識の性に住せんと求めざるに至るまで二種の隨眠に於て猶を能く伏滅すること能わず、現前に少物を立てて是れ唯識性と謂えり、所得有るを以ての故に實に唯識に住するに非ず...